

# 令和6年度 学力向上推進プラン

青梅市立泉中学校

## 1. ビジョン

誰一人孤立させない、生徒も教師も学び合う学校  
～心ある生徒の育成～  
(感謝、主体性、協調性、寛容)

学びという観点を特筆すると

- ・一人残らず子どもの学ぶ権利を保障する。
- ・探究の過程における生徒の学びを大切にす。
- ・教師が専門家として成長する。

## 2. 考え方 (哲学)

◎公共性;教室と授業を内にも外にも開く学校。

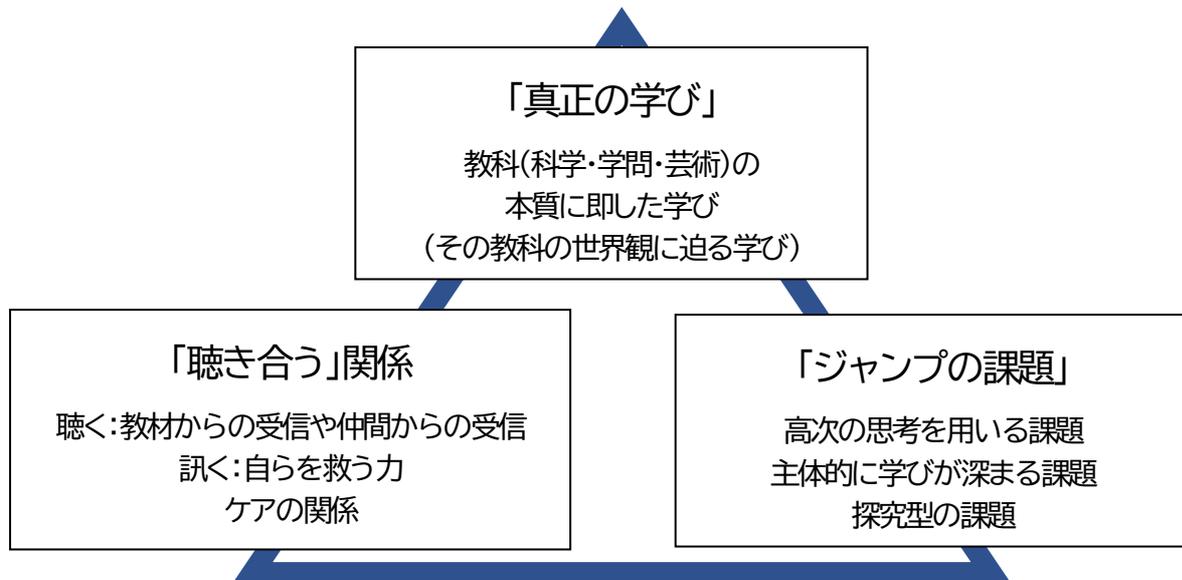
◎公平性;生徒も教師も、一人ひとりが主人公になって協同している学校。  
生徒と生徒、生徒と教師、教師と教師の間に「聴き合う」関係を創造る。

◎卓越性;どんな条件にあっても、その条件に応じてベストを尽くす。  
丁寧さと細やかさを大切にして、最高の学びを追究する。

## 3. 全国調査と東京都調査および NRT の結果より

- ・学習に意欲的に取り組む生徒が多く、基礎基本の定着(知識・技能の習得)はある程度進んでいる。  
さらなる向上を目指して、ジャンプの課題・協同・探究を重視した授業を展開することが重要である。
- ・読解力(情報の整理・理解など)とともに思考力・判断力・表現力等や、意欲的に根気よく取り組む姿勢を育む必要がある。
- ・双方(全国と東京都)の生徒質問紙より、コロナ禍にもかかわらず生徒同士の関係性が良くなっており、その成果が NRT の結果に表れている。
- ・NRT の結果から、学年進行に応じて着実に学力が向上している。現在の「学び合う授業」を今後も継続することが大切である。
- ・「共有の課題」と「ジャンプの課題」を用意し、ペアや四人組を活用し、「つなぐ」ことを重視した授業を行っていく必要がある。

#### 4. 全教科で行う授業改善の視点（活動システム）～「協同的な学び」の創造～



- ① 「聴き合う」関係性を醸成する。(平等感と安心感を培う)
- ② 「共有の課題」と「ジャンプの課題」を準備する。
- ③ ペアや四人組の活用と男女市松模様となるコの字型机配置。
- ④ 「個人の活動、ペアや四人組での協同、全体での共有」の場面を設ける。
- ⑤ 「わからなさや困り感」に寄り添い、そこから学ばせる。
- ⑥ 「聴く、つなぐ、戻す」を重視して授業を進める。
 

「聴く」⇒生徒同士、教材から、生徒と教師、教師同士 「つなぐ」⇒生徒と生徒、生徒と教材、生徒と既習事項 「戻す」⇒教材へ、全体へ、グループへ戻す	} 教師の説明を減らす ことに繋がる
--	-----------------------
- ⑦ 生徒が夢中になって、ていねいに取り組み、わからないときは自ら助けを求められる安心感と平等感。
- ⑧ 生徒一人一人が主人公であるために、一人一人の様子をよく見る。(表情、姿勢、動作など)
- ⑨ 教師は単元の全体像や単元間のつながりを把握する。
- ⑩ ねらいを明確にし、ことばや発言を精選する。(教師の説明を減らす努力)
- ⑪ 教師が互いに授業を公開・参観し、生徒の学びについて共同で振り返り学び合う。
- ⑫ hyper-QUを活用し、生徒の心理面の理解を深める。  
(読み取れる内容;学級満足度尺度、学校生活意欲尺度、ソーシャルスキル尺度)
- ⑬ NRT(標準学力検査)や年2回校内で行う授業に関する生徒評価を活用し、生徒の観点別学習状況を経年で把握するとともに生徒の学習意欲等を把握し、指導に役立てる。
- ⑭ GIGA 情報委員会を中心に、GIGA スクール構想で配備されたタブレット端末の授業中における活用と家庭学習における活用を推進する。(e ライブラリや Google ソフトの活用)

また、臨時休校への備えや出席停止および不登校対応として、これまでに構築したオンライン学習の仕組みを積極的に活用する。

### = 「質の高い学び」 のために =

- 教師が「この1時間の学び」のビジョンを明確にもつ。
  - ・ 生徒がどういうことが言えるようになることを、この授業で目指したいのか。
  - ・ 個々の子どもの学びが、授業のはじめに立っているそれぞれの場所からの「前進」するイメージをもつ。
- そこからその前進を引き起こす仕掛け(課題設定の仕方・活動の中身)を考えていく。

## 5. 過去4年間の生徒の実態から

### ①全国と東京都の学習状況調査に伴う質問紙の結果

令和5年度 全国生徒質問紙・東京都生徒質問紙より  
令和2年度から令和5年度 全国学力・学習状況の生徒質問紙(本校3年生)

問題番号	質問事項	R2	R3	R4	R5	R5都
4	自分には良いところがあると思いますか。(青梅市学力向上5か年計画数値目標 R5 75% R6 80%)	77.2	72.6	70.4	78.8	80.1
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか			77.3	86.2	84.6
7	将来の夢や目標を持っていますか。	71.2	56.5	70.5	60.2	64.3
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか			56.5	78.0	65.7
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	89.0	93.2	90.4	95.9	93.4
12	学校に行くのは楽しいと思いますか。		78.8	72.2	88.6	81.6
16	家で自分で計画を立て勉強していますか。(青梅市学力向上5か年計画数値目標 R5 60% R6 65%)	57.6	54.2	59.1	65.0	56.3
17	平日、学校の授業以外に一日あたりどれくらい勉強しますか。(1時間以上)	84.0	70.2	66.0	74.8	71.2
20	平日、学校の授業以外に一日あたりどれくらい読書をしますか。(30分以上)	21.2	41.3	23.9	29.3	29.1
40	生徒の間で話し合うことを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。 (青梅市学力向上5か年計画数値目標 R5 75% R6 78%)	81.3	81.7	80.0	87.0	80.1

※メンタル面を表す問4は過去4年間で一番高かったが、都よりも若干下回っている。また問5、10、11、12も令和4年度と比較して、大幅に上昇し、都よりも上回った。いずれにしても自己有用感の醸成する活動が大きく効果を発揮している。しかし問7は令和4年度より10ポイントも低く、都よりも下回ってしまった。キャリア教育を推進していく必要がある。

学習面を表す問16、17、20、40は令和4年度や都と比較しても上回っているが、中でも問20の学校以外での読書量が少ない。学校での朝読書以外でも読書週間が身につくように指導したい。

青梅市学力向上新5か年計画の成果目標については、問11のみ到達しており、コロナ禍にもかかわらず昨年度より向上していることに本校の3年間の取組の成果が表れている。

問4、16、40はR5 青梅市学力向上5か年計画数値目標を達成できた。

## ②令和5年度東京都児童生徒の学力向上を図るための調査質問紙の結果

令和5年度 東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査用紙(泉中学校)		当てはまる		+評価		R4の+評価	
	質問事項	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都
12-1	授業では、問題や活動に取り組んで「できた」「分かった」と感じる人が多いと思う。	41.7	36.0	85.4	83.1	80.2	82.0
12-2	授業では、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。	36.7	31.0	83.6	80.2	77.4	78.7
12-3	授業では、他の教科の授業で学習した内容を生かして考える時間があると思う。	32.1	26.9	77.6	74.0	70.6	72.1
12-4	授業で他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う。	49.9	39.5	88.7	84.7	83.3	83.2
12-5	授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う。	39.1	31.3	81.4	77.9	78.9	77.2
12-6	授業では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを、教えてもらっていると思う。	31.2	24.7	75.2	71.5	63.6	70.9

※全ての質問に対して、令和5年度の東京都や令和4年度の本校及び東京都の平均値より上回っている。本校が目指す学びの共同体の授業が生徒にも浸透している。振り返りの仕方を明確にする必要がある。

## ③NRT（数研式 標準学力検査）の結果

令和3年度から5年度 数研式標準学力調査(NRT)

	国語	社会	数学	理科	英語
R5年度	2021・2022・2023	2021・2022・2023	2021・2022・2023	2021・2022・2023	2021・2022・2023
1年生	○・○・47.4	○・○・43.7	○・○・47.1	○・○・42.6	○・○・49.3
2年生	○・47.7・49.3	○・44.4・44.0	○・47.9・46.7	○・44.1・42.6	○・50.5・49.3
3年生	47.9・50.7・50.2	46.7・47.8・49.2	48.6・49.8・50.2	43.0・52.9・52.0	51.0・51.7・50.3

※学年進行に応じて学力が向上している。一方で令和5年度東京都生徒質問紙の結果から、課題の内容と授業の展開方法(「つなぐ」観点)をさらに工夫する必要がある。誰一人孤立させない、協同と探究のある「学び合う授業」を今後も継続することが大切である。

## 6. 人事考課制度の活用

すべての教員が、自己申告書の学習指導欄に「学び合う」授業に関する内容を記述し、誰一人孤立させない協同と探究のある授業づくりに取り組み、授業を通じて『心ある生徒の育成』に取り組む。それが、結果的に学力の向上につながる。

この点において校長の方針の具現化という観点で、カリキュラム・マネジメントを行う。